

KURE KOSEN

 National Institute of Technology, Kure College

呉高専だより



バドミントン部

呉高専と保護者をつなぐ情報紙



目次

| | |
|---------------|--|
| ● 校長あいさつ | 3年目の夏に想うこと(校長 森野 数博)..... 1 |
| ● 役員あいさつ | 学生たちの応援団(後援会会長 当田 信幸)..... 2 アクティブラーニング(教務主事 森脇 武夫)..... 2 専攻科教育改革元年(専攻科長 岩本 英久)..... 3 本校の学生をみて思うこと(学生主事 篠部 裕)..... 3 教育寮としての学生寮(寮務主事 木原 滋哉)..... 4 創立50周年記念事業(事務部長 愛場 優治)..... 4 |
| ● トピックス | 学校見学会(教務主事補 山岡 俊一)..... 5 公開授業アンケート結果(4月29日(火・祝)実施)(学生課教務係)..... 5 おもしろ科学体験フェスティバル(広島、福山) (教務主事補 山岡 俊一)..... 7 豊田高専での人事交流(環境都市工学分野 山岡 俊一)..... 7 呉高専教育改革検討プロジェクト (呉高専教育改革検討プロジェクト委員長 林和彦)..... 8 |
| ● 学科紹介 | 機械工学科における3Dプリンターを用いた設計教育 (機械工学分野 准教授 上寺 哲也)..... 9 電気情報技術者は「エネルギー・制御」と「情報・通信」の両刀使い (電気情報工学科 教育主任 山崎 勉)..... 9 環境都市工学科の紹介(環境都市工学科 教育主任 加納 誠二)..... 10 最先端のデザイン教育-建築学科- (建築学科 教育主任 松野 一成)..... 10 |
| ● 国際交流 | 人生を変えるような経験～Life changing Experiences～ (国際交流室 上杉 裕子)..... 11 ホストファミリーを経験して(建築学科2年 山根 美保)..... 11 国際交流パーティー(国際交流室 光井 周平)..... 12 留学生シンポジウム(国際交流室 光井 周平)..... 12 |
| ● 新任教員紹介 | 就任にあたって(人文社会系分野 上芝 令子)..... 13 新任のご挨拶(人文社会系分野 丸山 啓史)..... 13 |
| ● 市民セミナー | 呉ゆかりの歌人たち- 渡辺直己から万葉歌碑まで - (人文社会系分野 外村 彰)..... 14 かっこよく英語を話そう!「英語の発音やりなおしセミナー」を 開催(人文社会系分野 富村 憲貴)..... 14 |
| ● 学生相談室 | 学生相談室より(学生相談室長 宇根 俊範)..... 15 |
| ● 高校総体/高専大会結果 | 平成26年度 高校総体結果(団体戦)(学生課学生係)..... 15 第50回 中国地区高等専門学校体育大会成績(学生課学生係)..... 16 |
| ● 嶺陽寮 | 4年間寮生活を送ってきて(機械工学科4年 中井 大介)..... 17 寮生活4年目(建築学科4年 伊達 千尋)..... 17 |
| ● 食堂運営管理 | 呉高専の食堂運営管理について (シダックスフードサービス株式会社中国支店 高橋 信義)..... 18 |
| ● 広報室 | 広報室より(広報室長 佐々木 伸子)..... 18 |

3年目の夏に想うこと

校長 森野 数博



呉高専に着任以来、3度目の夏がやってきました。

目にする風景にさほど大きな変化はありませんが、そこに流れる空気には、わずかずつではあ

りますが、確かな変化を感じています。

今年の学校見学会（第1回）の参加者は昨年を上回り、過去最高となりました。本年2月に放映された「ぐるぐるスクール」が社会に対する本校のよきPRとなり、編集されたその映像をみることで我々自身も自信を取り戻したことが大きな要因として考えられそうです。それが追い風となり、いろいろな面で状況が好転しつつあります。

昨年度半減した遅刻・欠席が、さらに大きく減りつつあります。処分件数も、いまのところ少なめ。身なりや授業態度はまだ十分とはいえませんが、外見的にはやっと世間並に近づいてきたかなと。あとは本質的なこと。みなさんが社会でしっかり活躍し、それぞれの夢を実現しうる「自主性・自立性」を育て、それぞれがもつ可能性を引き出し、才能を伸ばせる環境を整えることが残された課題ですが、こちらはまだまだこれからです。しかし、すでにお伝えしていますように、昨年7月に立ち上げた「呉高専教育改革検討プロジェクト」において本校の教育全般について見直しが行われており、5月に校長答申（中間報告）が提出され、本校がめざすべき方向性はほぼ固まりました。

高専は半世紀以上にわたり有為な人材を輩出し、日本の繁栄に大きく貢献してきました。しかしながら、高専が社会に対して果たしてきた貢献度に比べると、高専の認知度や卒業生の社

会的地位はいまひとつ。残念ながら、それに十分見合うだけのものが得られているとはいえないう状況にあることは否めません。今後さらなる変化の予想される社会に対応し、これからの半世紀を生き残るため、我々は何をなすべきか。いまの状況を打破すべく我々が打ち出した方向は、みなさんを“世界目線”の技術者へと孵化させる「地域発・インキュベーション型教育」を推進し、「ひとつ高い目線や意識をもつ高度なものづくりの中核技術者」を輩出するとともに、「社会をも変える人材」を3%（学科でひとり）育成すること。いまその実現に向け、プロジェクトで具体的検討に入っています。

まず手始めにと、みなさんが自由に主体的に創造活動ができ、みなさん同士の有機的なつながりや相互作用を促す「コワーキングスペース」を図書館棟1階に創るべく参加希望者を募ったところ、なんと143名が名乗りを上げたとのこと。

正直なところ、びっくりしました。だって、夏休み中、しかもボランティアですもんね。しかし、我々は勇気を得るとともに、大いに反省もしました。こんなに大勢意欲のある学生がいるのに、それに応える教育ができていなかったんだと。いまさらではありますが、教育の成果が十分にはあがっていない主たる原因は、学生にあるのではなく、学校にあるんだ、と・・・

今年度の入試から、特別推薦制度の導入を決めました。自主性・自立性に優れた中学生を優先的にとることが目的ですが、予想どおり、大きな反響がありました。

今年は創立50周年。これからの半世紀に向け、「何もかもが規格外」である環境下で「理系エリート」であるみなさんの才能をともに伸ばすこと、「ぐるぐるスクール」で得た呉高専の評価を、この追い風に乗って一気に進めていきたいと、盛況だった学校見学会を終えて決意を新たにしました。

学生たちの応援団

後援会会長 当田 信幸



26年度の総会において後援会会長を拝命した当田です、任期の間、職責を全うできるよう重責ではありますが、後援会理事の方々や校長先生をはじめとした先生方、学校職員の皆様方のお力添えやご協力を頂き、一丸となって学校発展や、学生の成長のために後押しをしていきたいと思っています。ここ何年かで後援会活動も大勢の理事の方に参加をして頂き、活気づいているように思われます。これからも益々後援会活動を充実させていきたいと考えておりますので保護者の皆様のご理解やご協力をお願い致します。

学生の方、学校職員の皆様方のお力添えやご協力を頂き、一丸となって学校発展や、学生の成長のために後押しをしていきたいと思っています。ここ何年かで後援会活動も大勢の理事の方に参加をして頂き、活気づいているように思われます。これからも益々後援会活動を充実させていきたいと考えておりますので保護者の皆様のご理解やご協力をお願い致します。

学生の皆さんには折角この呉高専という立派な学校に入学したのですからたくさんの事を学び、自分の糧にして在学中の5年間又は7年間を充実させて、社会に出ても他の学校出身者と比べて何か違う光るものを身に付けて卒業してもらいたいと思います。

これからは国際化がまだまだ進みます、学校の勉強を一生懸命やることも大切ですが、例えばアルバイトをしてお金を貯めて海外旅行に行ったり、留学をしたりして見聞を広め、幅広い視野を持ちたくさんの知識を得て、引出しの多い人になってもらいたいと思います。その結果外国語が少しでも話せるようになれば、いつでも海外に出て行くこともできますし、仕事の選択肢も拡がり光り輝く未来が見えてきます、その海外に出ていくお手伝いを後援会としてこれからも援助していきます。

その他にも後援会活動として、色々な行事を予定しておりますので、保護者の皆様には重ねてご理解とご協力をお願い致します。

アクティブラーニング

教務主事 森脇 武夫

「これを勉強すると何の役に立つのですか」と質問をする学生がいます。勉強している内容が卒業後すぐに直接役立つものもありますが、すぐに役立つものや、場合によっては一生使わないものもあります。しかしそれは結果であって、勉強している時点でそれが将来どのように役立つかは予測できません。

アップルコンピュータ創作者のステイブ・ジョブズが、大学中退後に特に目的もなくカリグラフィ（書道）の授業を大学に無断で受けていて、それが後日マッキントッシュというパソコンを作った際に多種多様なフォント（書体）を取り入れることに結び付いたり、iPhoneで表示されるアイコンのデザインに活かされたりしたのは有名な話です。

高専の授業科目の多くは、特に専門科目は卒業後の近い将来に実際の仕事をするうえで役立つ内容となっていますが、技術革新が急速に進むこれからは学校で学んだことだけでは通用しません。学んだことをそのまま知識として覚えているだけではなく、それを自分なりに咀嚼して様々な場面で実際に活用できるようにしておくことや、新しいことを進んで学ぶ姿勢・習慣・方法を身に付けておくことが重要です。すなわち、先生から教えてもらったことを覚えるという従来の学習スタイルから、自ら未知なものを学び取るという学習スタイルへの転換が必要です。いわゆるアクティブラーニング（Active learning）と呼ばれている学習法です。

知らなかったことを知ることや、これまでできていなかったことができるようになることは、小さな子供がそうであるように単純に楽しいことです。あらゆることに知的好奇心を持って日常生活を送ることがアクティブラーニングそのものであり、勉強が苦痛でなくなる唯一の方法ではないかと思えます。

専攻科教育改革元年

専攻科長 岩本 英久

平成26年4月に、専攻科長は教務主事の兼職から独立しました。専攻科は本科5年一貫教育の「プラスアルファ」ではなく、専攻科に進学する学生は7年一貫教育となるように、教育システムを改革・拡充させていきたいと思えます。

まずは「特例適用認定専攻科」の申請を、本校教職員のご協力のもと、5月末に行いました。いままで、専攻科生は大学評価・学位授与機構に対して学位を申請し、試験に合格すれば学士（工学）を取得することができました。本校が特例適用認定を受けることができれば、専攻科生は学位申請を学位授与機構に行い、本校の所定の単位を修得すると、試験無しで学位を取得することができるようになります。

専攻科を改革するに当たり、私は①ダイバシティ、②イノベーション、③地域発のグローバル化、という3つのコンセプトを大切にしています。多くのイノベーションは多様な環境の中から生み出されています。多様性を許容する技術者を輩出するためには、自然科学や専門的知識が商品やビジネスにどのように応用されているかを理解し、自分が有する専門性をチームワークの中で発揮する能力が求められます。また、グローバルな倫理性やマネジメント力も求められます。そのような経験が体系的に学修できるよう、カリキュラムを構築し、伸びしろのある人材を輩出したいと考えています。

一方で、教員の多様性を確保するために、他高専と連携した共同教育課程を設置するなど、良質な教育コンテンツを提供できる環境を整えたいと思えます。留学生や社会人入学生を積極的に受け入れ、ダイバシティ型教育環境を整備するために、専攻科の改組も視野に入れて、改革を推進していきたいと思えます。

これから、本専攻科を修了した学生が、呉地域から世界に羽ばたき、夢を現実できる技術者になれるよう、皆様におかれましては専攻科の教育と運営にご協力とご尽力のほどをよろしくお願い申し上げます。

本校の学生をみて思うこと

学生主事 篠部 裕

私が本校の学生の生活指導を通して感じていることをここで紹介したい。

① 挨拶のできる学生

呉高専では、数年前から朝の挨拶運動を実施している。私もこれまでは担当教員として何回も立ち会って来たが、こちらが挨拶をしても挨拶を返してくれない学生がいるようだ。また、イヤホンを耳から外さずに素通りする学生、ポケットに手を入れたまま挨拶する学生が一部にいる。挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、相手の目を見て、はっきりと大きな声で挨拶できる学生になってもらいたい。

② 服装や身なりが整った学生

本校では3年以下は制服の着用が義務付けられている。しかし、ただ指定された制服を着て来ればよいというものではない。シャツをズボンから出している学生、ネクタイを中途半端に締めている学生、中には制服にサンダル履きという強者もいる。これでは傍目からはだらしない学生に見えてしまう。見た目は人の印象を決める上で重要だ。本校は今年、50周年を記念し制服を一新した。新しくデザインされた制服に「誇り」と「責任」を感じて、スマートに着こなしてほしい。

③ ルールやマナーを守れる学生

本校には売店や自動販売機があり、学生は休憩時間ともなると、アイスクリームやお菓子を買って小腹を満たす。気分転換という意味では悪くない。ただ残念に思うことは学生が、歩きながらこれらを食べて校内を歩いている場面に度々遭遇することだ。また、お菓子の包み紙が、教室・廊下・階段に捨てられているのを見ると心が痛む。明らかなマナー欠如でとても残念だ。

もうすでにお気づきであろうが上記の①～③は、人として身に付けておくべき最低限の資質である。これらのことがきちんと身に付いていれば、勉強は少々できなくとも社会に出てもそれなりに通用する。学校としては、少なくともこれらの資質を身に付けた学生を社会に送り出す責務があり、学生にはこれら3点は意識しながら生活してほしい。

教育寮としての学生寮

寮務主事 木原 滋哉

4月から寮務主事として寮生とかかわるようになり、寮生活のいろいろな側面が見えてきました。

学校として寮生に快適な生活環境を提供すること、きちんとした食事を提供することなどは、基本中の基本です。そうしたなかでもっとも配慮しなければならないのは、寮生の健康管理であり、安否の確認であると思っています。寮生の健康状態に気を配り、病気になったときにどう対応するか、寮生の所在が確認できないときにどうするか、お子さまをお預かりしている学生寮としては、もっとも心を砕いているところです。

また、寮生会の役員、週番などが学生寮の仕事を着実にこなさないと、寮生活は一日たりともうまく機能しないことにも気づきました。寮生全員が自分たちの役割を果たすことではじめて集団生活がうまくいきます。誰かがサボってしまったら他の寮生が迷惑をこうむります。寮生たちは、こうしたことを少しずつ学んでいきます。

学生たちは何かを決めるときに、話し合うことなくすぐに、多数決で決めよう、と言います。欲を言えば、寮生活のなかで問題を発見し、議論を重ね、自分たちで解決方法を発見し、実行するようになってほしいと思っています。寮生が、ルールを守るだけではなく、自分たちで議論を重ねルールを作り出した上で、寮生活をよりよいものにする、そうした経験を重ねることができるのが、教育寮としての学生寮であると思います。快適な環境で生活することよりも、快適な環境にするためにはどうしたらいいのか、学生たちが知恵を出して改善していくこと、そのために教員としてサポートしていきたいと思っています。

もちろん寮生にはきちんと勉強してほしい、とも思います。今回、寮生会の役員と話し合っ、前期末試験の前に、1、2年生に集まってもらい、みんなで勉強する時間を何回か設けました。まずは勉強する習慣が身につけていないことが問題ではないか、という指摘に基づいた試みでした。この試みは、これからも試行錯誤すると思いますが、寮生と話し合っ、学習環境も整えていくことになると思います。

学生寮が文字通り教育寮として発展することを大きな目標として掲げて、新年度がスタートしました。

創立50周年記念事業

事務部長 愛場 優治

こんにちは、事務部の愛場です。

呉高専は、東京オリンピックの開催や東海道新幹線が開通した昭和39年に設置され、今年度創立50周年を迎え、日本全国に51校ある国立高専の第3期校として発足しました。

この記念となる年にいろいろな事業を計画しています。

10月25日(土)に記念式典及び記念講演会を呉市文化ホールで開催します。記念講演では、元東京藝術大学長の澄川喜一先生をお招きします。澄川先生は、一昨年度オープンした東京スカイツリーのデザイン監修を務められ、面白い裏話が聞けそうですね。

次に、記念施設環境整備として、本校の北東交差点に面した一角に時計台を含めたモニュメントや植樹を行うこと計画しています。

このモニュメントは、本校学生、地域の小中学校からアイデアを募集し、現在具体的な設計を進めています。



(イメージ)

次に、記念誌の発行を行います。呉高専の50年間の歴史、思い出をたくさんの方々から、執筆や写真をいただき取りまとめしておりますので、楽しみな一冊が出来上がります。

ここでちょっと事務組織のことを紹介します。事務は学生課、総務課と2つの課があり、学生証の発行、授業料免除等の業務、授業・成績関係の業務や教職員採用、各種会議の設定、予算管理、物品発注など学校運営全般にわたる仕事を担っています。何か困ったことがあれば、お気軽に声をかけてください。若い職員も大勢いますよ。

最後に、50周年を節目にさらに呉高専が発展、羽ばたくことを祈念して。

Realize your Dream

学校見学会

教務主事補 山岡 俊一



8月3日（日）、学校見学会が本校で開催され、合計629名の方にご参加いただきました。

全体説明会では、森野校長のあいさつに続いて、森脇教務主事より本校の全体説明がありました。その中で、新たな入試制度「特別推薦」の導入について紹介がありました。

その後、希望者にはキャンパスツアーに参加していただき、機械工学科、電気情報工学科、環境都市工学科、建築学科の4つの棟を巡回して、各学科の展示物や実験・実習の施設を見学していただきました。

その他、理科実験、クラブ紹介、学食体験、学生寮質問コーナー、女子中学生なんでも相談会、鉄道模型（Nゲージ）ジオラマ展示・運転体験などにもご参加いただきました。

また、図書館棟1Fロビーに設けられた「学生生活に関する質問・相談コーナー」には、多くの中学生や保護者の皆様から様々なご質問をいただきました。特に、「特別推薦」に関するご質問が多かったようです。

参加者の皆様には、呉高専の魅力をたくさん発見していただけたことと思います。

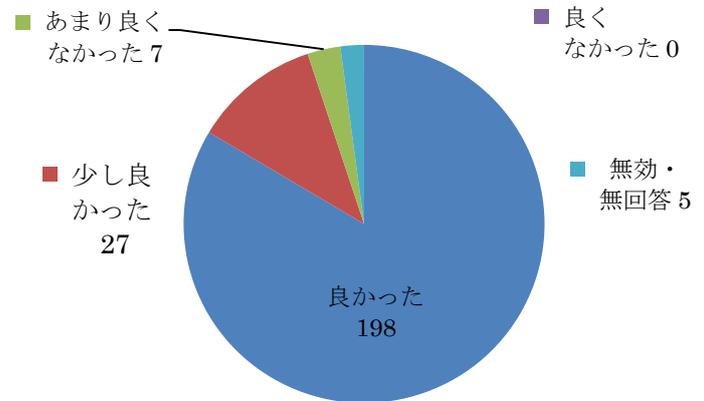
高専祭が開催される11月1日（土）にも2回目の学校見学会を開催します。学生主体の大イベントである高専祭を楽しみながら、呉高専を知っていただければと思います。

最後に、雨天で蒸し暑い中、学校見学会にご参加いただきました皆様には厚くお礼を申し上げます。また、本校の応援学生の皆さんにも感謝いたします。

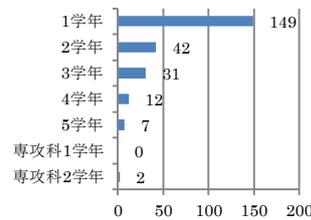
公開授業アンケート結果

（4月29日（火・祝）実施）

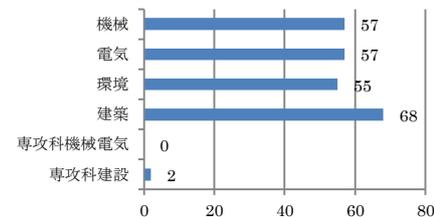
(1) 本日の公開授業はいかがでしたか？



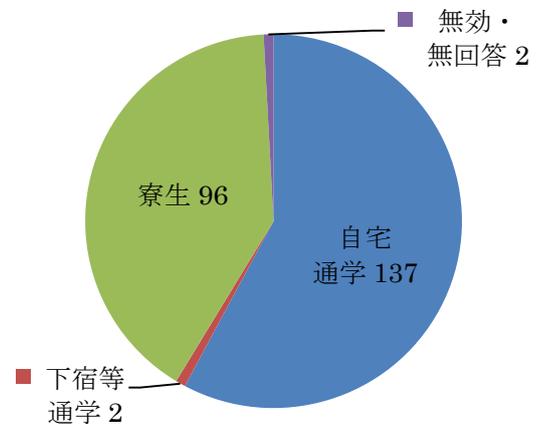
(2) お子様の学年をお答えください。 (複数回答可)



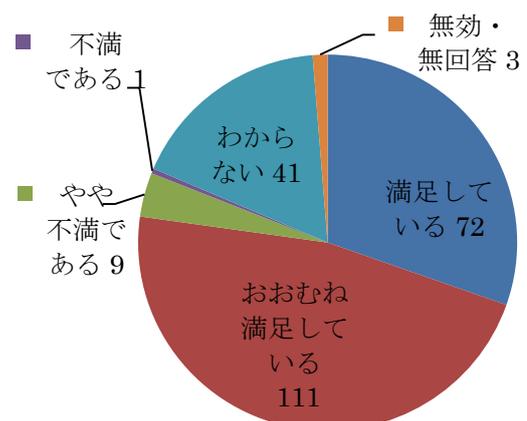
(3) お子様の所属学科は？ (複数回答可)



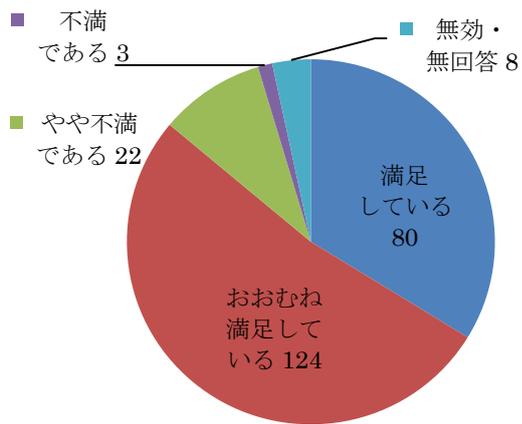
(4) お子様は通学生ですか？寮生ですか？



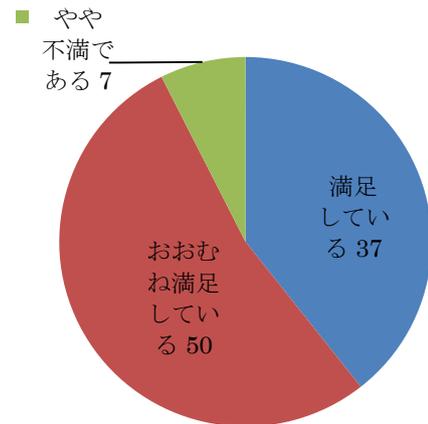
(5) 学生への学習指導について



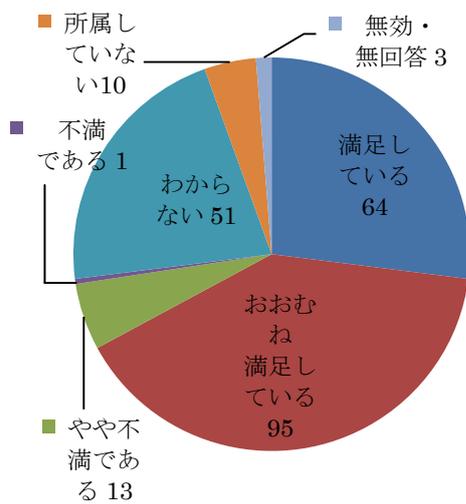
(6) 学生への生活指導のあり方について



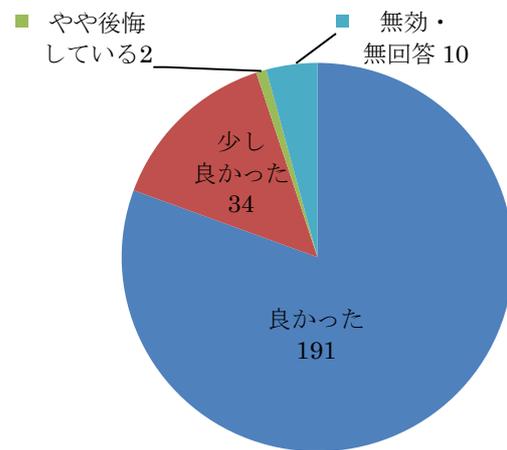
(9) お子様の寮生活について



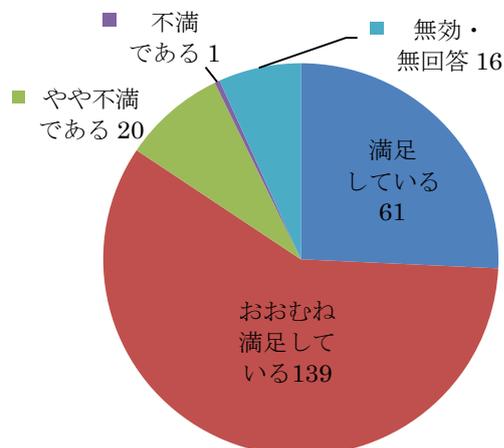
(7) 課外活動（部活動）の指導のあり方について



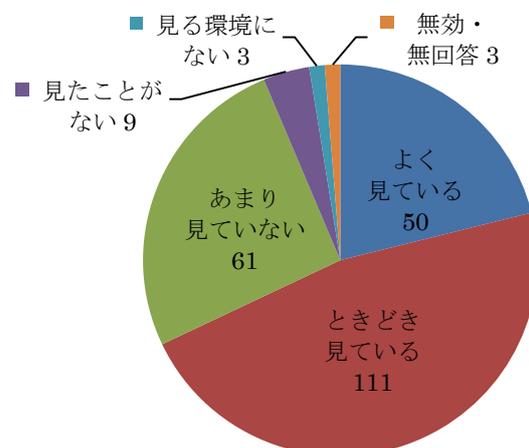
(10) お子様を呉高専に入学させてよかった？



(8) 保護者の皆様と学校の連携について



(11) 呉高専のHPをご覧になっていますか。



おもしろ科学体験フェスティバル(広島、福山)

教務主事補 山岡 俊一

6月15日(日)に広島(広島駅南口地下広場)、6月22日(日)に福山(イトーヨーカドー福山店と天満屋ポートプラザ店の間にあるポートモール)にて、おもしろ科学体験フェスティバルを開催しました。

広島開催では、4学科(機械、電気情報、環境都市、建築)、一般教養の自然科学系分野、男女共同参画推進室による各ブースにおいて、趣向を凝らした実験体験や工作が用意され、小さなお子様からお年寄りまで、多くの来場者に楽しんでいただきました。また、吹奏楽部による演奏会、ロボット製作クラブによるロボット操作・試乗体験が行われました。



広島会場

福山開催は、3高専(呉高専、広島商船高専、米子高専)での共同開催でした。呉高専からは2学科(機械、建築)と男女共同参画推進室による各ブースにおいて、手作り UFO キャッチャー体験、3Dプリンターの作品展示、アクリル板で作るスカイツリーやLED手芸等の工作、また、ロボット製作クラブによるロボット操作・試乗体験も行われました。両開催とも大盛況でした。ご来場いただいた市民の皆様には、科学やものづくりの楽しさや面白さ、また「高専」について知っていただくことができたとおもいます。



福山会場(呉高専コーナー)

豊田高専での人事交流

環境都市工学分野 山岡 俊一

高専・両技科大(長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学)間教員交流制度により、平成25年度は豊田高専に勤務いたしました。豊田高専はトヨタ自動車で有名な愛知県豊田市にあります。私の出身地は名古屋市ですので、12年ぶりの地元でした。



さて、担当授業は環境都市工学科2年生の測量学、4年生の情報処理等を担当しました。熱心な学生が多く、楽しく授業ができました。校務はキャリア教育支援室員として、学生の高専生活の充実、キャリアプランの作成・実行の支援を目的とした様々なプログラムを担当しました。呉高専のキャリア教育の参考になりそうなものもありました。他にも特徴的な教務システム、成績証拠資料の保管方法、611人の寮生が生活する大規模な学生寮等、様々なことを学ぶことができました。



研究活動としては、(公財)豊田都市交通研究所、地元企業等との「路側提示型速度抑制装置の研究」、豊橋技術科学大学や中京大学等との「ドライバーの速度遵守意識醸成に関する研究」、東海地方の様々な研究者と共同研究を開始できました。

また、愛知県通学路安全推進事業における通学路安全対策アドバイザーに就任する等、専門知識を生かした地域貢献もできました。あっという間の1年間でしたが、得るものの多い大変貴重な経験でした。

呉高専教育改革検討プロジェクト

呉高専教育改革検討プロジェクト委員長 林 和彦

産業界において高い評価を得ている高専ですが、高専の社会的認知度と高専生の社会的地位は十分に高いとは言い難く、また、産業構造の変化、少子化、予算削減などによって、教育を現状のままにしておくことが許される状況ではありません。そこで、昨年度9月に校長直轄で「呉高専教育改革検討プロジェクト」を設置し、本校の教育の全面的な見直しに取り組んでいます。メンバーは、各学科50歳以下の若手・中堅教員と東京の教育・人材育成を専門としている三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)の外部委員(呉市出身・高路地氏)で構成されています。毎週のように議論を重ね、5月に校長答申の中間報告をしました。その主な内容は下記の通りです。

・ビジョン

呉高専は、学生を”世界目線”の技術者へと孵化(インキュベート)させる「地域発・インキュベート型教育機関」に転換し、教職員は若手技術者を支援・育成するプロフェッショナルとなる。本教育によって、呉高専から「社会を変える人材」を3%(学科で1人)輩出する。

・教育プログラム

「社会を変える人材」を輩出する教育プログラムとして、ものづくりによって人の価値観を変え、人類の幸福に貢献できる人材を育成するカリキュラムを構築する。カリキュラムの中核として、入学初期教育、基礎学力のセーフティネットの構築、全学科全学年共通のコアタイム(実働2時間程度)を確保して実施するPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)型の「インキュベーション授業」(仮称)を導入する。

・教育環境

「インキュベーション授業」(仮称)を実施するにあたり、学生が主体的に創作活動ができ、学生同士の有機的なつながりや相互作用を促す「コワーキングスペース(協働作業場)」を、全学共通ならびに学科ごとの場として整備する。

もし、呉高専が毎年送り出す人材の中から1人でも、社会を変えるような場(世界のリーディング企業(Google、Appleなど)やベンチャー企業、国際的な研究機関、海外の一流大学、国連などの国際機関、世界的なNPO法人、政治・行政、エンターテインメント、スポーツ、アートなど)に人材を輩出できたとしたら、呉高専の社会的認知度は向上しないだろうか。そして、そのような場で世界的な活躍ができる人材であれば、呉高専卒としての人材の社会的地位は向

上しないだろうか。依然として97%の学生は従来の就職・進学をするかもしれないが、社会を変えるような人材を輩出した教育環境で育った技術者はそれぞれの場で、ひとつ高い目線や意識で活躍できるのではないか。一握りの有能な人材を育てる教育ではなく、意識の高い学生が牽引して全体を引き上げる教育を目指します。

また、「世界目線」とは、地理的な条件だけではありません。技術や理工系といった特定の分野や領域を超えた世界と接点を持つことを前提とした「思考・心の有様=マインドセット」の意味として使用しています。呉だからこそ発信できる情報、呉高専生だからこそ獲得できる能力を世界にアピールする気概を育成していきます。

現在、すでに「インキュベーション授業」を組み込んだカリキュラムの策定を行い、H27年度に実施する予定です。また、「コワーキングスペース(協働作業場)」について、「場の発明」をコンセプトに活動する東京のベンチャー企業である(株)ツクルバと協働して、チャレンジを実践していく場「co-ba 呉高専」を学生課ロビーに製作するプロジェクトを始動させています。8月2日(土)にはプロジェクトの1回目の取り組みを実施し、休日にも関わらず約120名の学生が自主的に参加しました。また、今後、9月2日(火)の2回目の取り組みではデザインを考え、9月21日(日)と22日(月)の二日間の合宿では、学生が主体となって「自分たちの学びの場」を実際にプロと協働で製作をする予定です。

改革の取り組みは始まったばかりですが、「co-ba 呉高専」プロジェクトの申込者数は低学年を中心に150名を超え、すでに学生が孵化(インキュベート)する兆しが見えてきています。また、本取り組みに共感して頂ける動きもあり、中国木材(株)からは製作に必要な木材を無償提供頂けることになりました。各種メディアからの取材も頂いております。今後も学生がインキュベートする取り組みを実施して行く予定です。



機械工学科における 3Dプリンターを用いた設計教育

機械工学分野 准教授 上寺 哲也

機械工学科では、低学年から設計製図および工作実習の授業を行い、製作を見据えた設計製図が行える技術者の輩出を目指しています。しかし、制作時に発見した設計ミス、設計図面にフィードバックする様な事を行う授業は、部品製作にかかる時間的な制約から存在しませんでした。そこで平成23年度より、設計教育の高度化を目指し、3Dプリンターの導入を開始しました(図1)。



図1. ABS 積層型 3D プリンター

3Dプリンターは三次元の製図データがあれば、簡単に短時間で部品を製作することが可能です。本学科では平成26年7月現在、三種類(7台)の3Dプリンターを導入しています。

現在、5年生の工学実験では3Dプリンターの利用体験として、全種類の3Dプリンターを用いた簡単な部品の製作を行っています。また専攻科1年生の特別実験では、ブリッジコンテストを開催し、設計・数値解析・製作・実験を繰り返し行い、設計感覚を鍛える事が出来ています(図2)。



図2. ブリッジコンテストの様子

さらに本学科5年生が3次元デジタル設計造形コンテストに参加し、H24年度は総合優勝、H25年度は総合3位に入賞しています(図3)。他にも、50周年記念行事として、専攻科1年生が東京スカイツリーの模型を製作する等、様々な教育活動に活用しています。

しかし、現在の授業カリキュラムでは、何度も試行錯誤ができる授業・実習は未だ少ないと言わざるを得ません。

今後、3Dプリンター等の新しい技術を積極的に授業に取り入れ、試行錯誤ができる学生を育てられる様にしたいと考えています。

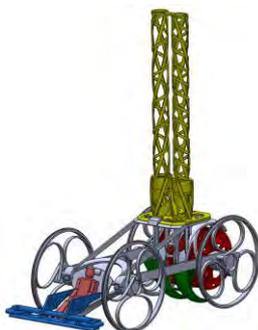


図3. コンテスト出場機

電気情報技術者は「エネルギー・制御」と「情報・通信」の両刀使い

電気情報工学科教育主任 山崎 勉

電気工学は多くの革新的技術を吸収しつつ、人類社会の文化・文明に貢献してきました。今後も将来発展の原動力としてその役割は益々増加してきています。振り返ると、始まりは照明(明治11年日本初のアーク灯)や動力(明治28年京都市電)への利用、通信手段(明治2年電信業務開始)として電気の利用でした、あれから百数十年でここまで発展してきました。

その間には半導体などの材料・素子・部品に関する電子工学やコンピュータを含む情報技術の成果は制御技術にも活かされ、より質の高い電力や情報などを社会に供給できるようにしてきました。またこれからも進化し続けるため電気情報技術者は不可欠となります。



電気情報工学科棟南面

その広い仕事分野で活躍する技術者には様々な知識・知恵が必要です。高専教育では、洗練された基礎科目学習に並行して最新の革新的技術を利用できる能力=好奇心を磨くことが大切です。教育理念に掲げた「開発研究とものづくり現場を結ぶ技術者」の育成のため、今後とも実験実習に力を入れ、新しいことに対し積極的に取り組みチームの一員として指導力が発揮できる人材の育成を目指しています。ものづくり体験学習を強化し、講義で得た知識を実験実習により知恵として活用できるように絶間なくカリキュラムの改善をすすめています。



授業風景

環境都市工学科の紹介

環境都市工学科教育主任 加納 誠二

現在環境都市工学科には本科211名、専攻科9名の総勢220名の学生が在籍し、教員10名（+技術職員2名）が指導しています。

本学科で学ぶ専門的内容は、建設工学や環境技術などで、災害に強く、自然環境と共存する国土・地域を作るための技術について学ぶ学科です。従来の土木系科目に加え、バイオテクノロジーなどの環境関連の科目を多く取り入れているところに特色があります。

座学と呼ばれる講義だけでなく、測量実習や実験実習などにも力を入れており、現場見学会なども毎年開催しています。5年生のエンジニアデザインでは、それまでに習った事を利用して、模擬高速道路の設計を行います。プロジェクトベースドラッシング(PBL)形式の講義で、学生の主体性を育て、「創成能力」の育成を目指しています。(高専機構、2014)。このほか防災工学など様々な授業で学生自らが学ぶPBL形式の授業を取り入れ始めています。

卒業研究では、1年間かけて、実社会での課題解決や、新たな環境創造を目標に研究を行います。

就職・進学先は本校専攻科、国立大学・大学院(専攻科生)への進学、公務員(国家、地方)、総合建設会社、建設・環境系コンサルタント、JR各社・電力会社等の公益企業などへの就職です。



参考文献：エンジニアリングデザイン事例集，高専機構，Vol.7，2014.

http://www.kosen-k.go.jp/letter/kouhou/engineeringdesign_v07.pdf

最先端のデザイン教育

—建築学科—

建築学科教育主任 松野 一成

建築学科の教育カリキュラムは、「一級建築士資格」の取得を念頭に構成されております。昨年度の卒業生から適応された「一級建築士受験資格」にかかる国土交通大臣の指定する建築に関する科目要件ももちろん満たす充実した教育カリキュラムとなっております。

その中でもデザイン教育に使用している機器は時代の最先端を走っております。昨年度末デザインラボ(旧模型製作室)を整備し、インタラクティブホワイトボードを設置しデザイン教育の充実を図ると同時に、3Dプリンタ・レーザー加工機を設置しました。



高専だけでなく大学においても学生が自由にこれらの機器を使用できる環境にあるのは極めて稀な状況です。

設計手法はCADからCGへ、CGも2次元から3次元へなどと年々進化し、本校に設置される機器も年々進化しており、卒業生からはよく羨ましがられますが、その都度「君たちは当時の最先端の手法で設計していたのですよ」と説明しています。

人生を変えるような経験 ～Life Changing Experiences～

国際交流室 上杉 裕子

人は一生の中でどれくらい人生を変えるような経験～Life Changing Experiences～ができるだろうか。このたび、日本政府により進められているカケハシプロジェクト（北米地域との青少年交流事業）に参加できる機会に恵まれ、私たちはまさにそんな経験をした。

参加学生は23名。84名の応募者のうち、厳しい選考をくぐり抜けたメンバー。学校の代表として渡米する彼らを鍛えようと事前研修を何度も行い、プレゼンを準備した。

2日間東京で研修を受けた後、シアトルに飛んだ。そこで日本領事に本校のプレゼンのひとつが目に留まり、絶賛された。それは日本の古代技術が現代の免震技術に受継がれていることを発表したグループで、代表校の中の代表として領事館主催のレセプションで発表することとなった。

シアトルではマイクロソフト社を訪れ、日本人社員とのパネルディスカッションが企画され、彼らの国際感覚に圧倒された。シカゴでは2泊3日のホームステイを経験し、学生たちはプロバスケの試合観戦をするなど、ファミリーと生涯忘れられない時間を過ごした。ホイットニーヤング高校との交流会ではプレゼンを披露し、大盛況であった。今後も同校との友好関係が続くことを確信できた。

アトランタではホンダロック工場やコココーラ博物館を訪れた。あつという間の12日間で、毎晩遅くまで起きて翌日の準備等をし、睡眠時間は平均3～4時間程度だったが、みんな好奇心と持ち前の体力で乗り切った。

振り返ってみると忘れられない貴重な経験の数々。しかし忘れてはいけないこともあった。例えば毎日、遅刻・忘れ物・門限破りが絶えなかった。国際感覚を磨いてきたからには、こういった人としての原点を大切にできるようになるべきではないだろうか。確かに人生を変えるような経験だった。しかしそれをこれからどう活かすか、そのこともまた忘れてはならない。



ホストファミリーを経験して

建築学科2年 山根 美保

私は、今年の春オーストラリアのラッドフォード高校からホームステイにやってきた学生の受け入れをしました。私にとってホストファミリーをするのは初めてで、不安でしたが楽しみでもありました。私が受け入れたのは背が高くバスケットボールが好きなカタリンという女の子です。

金曜日、ラッドフォード高校の学生たちと顔合わせをしました。私はほかのホストファミリーのように積極的に話しかけることができませんでした。また、思ったより自分の思いを相手に伝えることが難しく、とても悔しい気持ちになりました。

あつという間に金曜日が終わり土曜日は、みんなと一緒に宮島へ行きました。一緒に写真を撮ったり、お弁当を食べたりしてとても楽しかったです。カタリンはお土産屋さんで二つ入りのストラップを買って一つ私にくれました。私のことを考えて買ってくれたのだと思うととてもうれしくなりました。

そして、4月12日はカタリンの誕生日でした。カタリンにとって良い誕生日になるように家族みんなで心を込めてお祝いしました。母がケーキを買ってきてくれて、父はたくさん日本独自のものを買ってプレゼントしていました。



日曜日は、私の地元の近くのウサギがたくさんいる島へ行きました。雨が降っていましたが、えさを持っているとウサギが寄ってきてとてもかわいかったです。カタリンも楽しそうにえさをあげていました。島のビジターセンターでは物づくり体験をして、カタリンはジブリが好きなのでトトロを作っていました。

月曜日からは一緒に学校へ通いました。朝は早くで大変でしたが、いい思い出になりました。私はカタリンがいる生活が当たり前になっていたのでお別れときはとても悲しい気持ちでした。

初めは不安だったけど、英語が相手に伝わった時や趣味で分かり合えたりしたときはとてもうれしい気持ちになりました。そして、今度は私がオーストラリアに行けるようにもっと英語を勉強したいと思いました。



国際交流パーティー

国際交流室 光井 周平



6月6日（金）に本校第1会議室において平成26年度の国際交流パーティーを開催しました。このパーティーは、呉高専で学ぶ留学生と日本人学生や呉高専の国際交流を支えてくださる近隣の方々との交流の場として毎年この時期に開催されています。今年度は総勢75名が参加してくださいました。

呉高専には現在4名の留学生が在籍しています。電気情報工学科5年のソムチャイ君(ラオス)、建築学科4年のオノン君(モンゴル)、機械工学科3年のシャヒミ君(マレーシア)、そして電気情報工学科3年のシラムさん(カンボジア)です。パーティーでは国際交流室長のあいさつ、歓談に続いて留学生からそれぞれの母国について紹介してもらいました。4人ともとても上手な日本語でそれぞれの国の言葉や文化、食べ物などをたくさんの写真などを使って分かりやすく紹介してくれました。

続いて学生会によるアトラクション。今年は「絵しりとり」をしました。絵を描いてしりとりをするというのはなかなか大変でしたがとても盛り上がりました。最後は国際交流部の部長さんが流暢な英語を交えて閉会のあいさつをしてくださいました。

様々な取り組みを通じて呉高専の国際交流はどんどん活発化しています。たくさんのチャンスが用意されていますから、学生のみなさんはぜひ積極的に世界に飛び出してみてください。

お忙しい中ご参加いただきました近隣の皆様に御礼申し上げます。今後とも呉高専の国際交流にご協力よろしく願いいたします。また、準備・協力してくれた国際交流部、学生会のみなさん、ありがとうございました。

留学生シンポジウム

国際交流室 光井 周平

6月20日（金）から22日（日）にかけて岡山県の国立吉備青少年自然の家で留学生交流シンポジウムが開催されました。

このイベントは津山高専が中心となって中国地区8高専から留学生や日本人学生が集まり交流を深めるというもので、今年で4回目になります。呉高専からは留学生2名と日本人学生13名の計15名が参加し、全体では合計約60名が集まりました。

初日は開会のあいさつに続きアイスブレイキングと自己紹介を兼ねたゲームをしました。夕食は班に分かれて野外炊事。初めて会った他高専の学生と協力して夕飯をつくりました。

2日目は「もしも高専の校長だったら」というテーマで班ごとにディスカッションを行い、最後は英語で発表をしました。私が参加した班では“学生の英語力を上げるために英語の授業は英語ですべきだ”という内容の発表でした。日本人の学生とマレーシア、カンボジア、モンゴルからの留学生がそれぞれの国での英語教育について紹介しながら議論をしました。また、岡山県 JICA（国際協力機構）の方の国際理解ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」も行われ、世界の中で日本がいかに恵まれた環境にあるのかを感じました。

最終日は午前中班ごとにアクティビティをして昼食後に解散しました。短い期間でしたが他高専に留学生・日本人の友人がたくさんできたことと思います。こうしたイベントへの参加を通じて国際交流のおもしろさを多くの学生に知ってもらえたらと思っています。

シンポジウムの実施にご尽力いただきました津山高専の関係各位に感謝いたします。



就任にあたって

人文社会系分野 上芝 令子

平成26年4月に人文社会系分野・国語科に着任致しました上芝令子と申します。どうぞよろしくお願い致します。

生まれは京都ですが父の転勤で一歳になる前に広島の地に参りましたのでほぼ広島っ子です。中学、高校時代は名古屋の愛知淑徳学園というクラブ活動が大変盛んな女子校で暢気に過ごしておりました。大学を機に再び広島に戻り、以来広島との縁が続いております。歴史と文学の両方を、また興味のあることを存分に学びたいという高校生の私の、欲張った思いに応えてくれそうな大学が、様々な分野の学問を多角的に学ぶという（当時の触れ込みでした）広島大学総合科学部でした。「幕の内弁当」（いろいろ楽しむことができるが深くは突き詰められない）と揶揄されることもある総合科学部ですが、国文学から国際法まで、希望通り様々な学問を享受できたように思います。現在の専門は近世国文学（江戸後期の禅僧の作品を研究しております）ですが、同じ場で大学院まで学び続けてまいりました。

高校生、高専生に授業という機会に関わり十年以上が経ちました。知識は確かに力です。高専生にとって将来と直結する知識、技術の修得は何より重要です。ですが、知識とともに大切な教養、知恵ともいえるのでしょうか、それらも今の学生には身につけてほしいのです。本校の学生は将来に明確なビジョンを抱いて入学しているだけあって学習意欲や目的意識の高い、優秀な学生ばかりです。が、不安や焦燥、挫折を味わうことと無縁のはずはなく、そんな時に狭量にならず、自らを客観的に見つめ直し、洞察し、もう一度と立ち上がるための人間力を養うための土台作りを手伝っていきたいと思っています。

学問が本来どれほど楽しく、また自らを羽ばたかせるものになるかを知ってもらえるよう、力を尽くす所存です。「文学」「国語」の場から、自らの傍らで支えとなることができる言葉や作品を共に探していきたいと思っています。

新任のご挨拶

人文社会系分野 丸山 啓史

平成26年4月1日付で呉工業高等専門学校に着任いたしました人文社会系分野（保健体育）の丸山啓史と申します。

愛知県出身で、広島大学入学後、広島大学大学院、広島大学教育学研究科健康スポーツ科学講座助教を経て、良縁あり、本校に赴任してまいりました。

専門は体育方法学、コーチング学ですが、自身が小学校から大学卒業するまでサッカーをしていたもので、その後も携わらせていただいた教育現場ではサッカー指導を行っており、本校でもサッカー部の顧問として活動する場を与えていただきました。

また、私はサッカー指導の中でも特に、ゴールキーパー（以下、GK）トレーニングを研究テーマとしています。先日、2014年W杯がドイツの優勝で幕を閉じましたが、今回のW杯はGKの大会と言われるほどGKが注目された大会でした。その中でも、優勝国のドイツは、昔から常に優秀なGK人材を輩出することで有名です。私も研究の関係で何度かドイツに足を運ぶことがありましたが、子どもの中でもGK人気が高く、優秀なGK人材が育つ環境が整っていることに驚きました。

さて、自身の夢としては日本からも優秀なGK人材が輩出されることを期待し、細々とではありますが研究を進めつつ、今後は保健体育の授業やクラブ活動を通して、学生の心身の健康や、より良いスクールライフを送れるよう、微力ながらサポートし、学生とともに学びながら自身も日々精進していきたいと思っています。

未熟な部分も多々あるとは存じますが、一生懸命努めてまいりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



ドイツの子どもの練習風景

呉ゆかりの歌人たち —渡辺直己から万葉歌碑まで—

人文社会系分野 外村 彰



今年の、文学に関する市民セミナー(7/5)では「呉ゆかりの歌人たち」と題し、呉生まれの近代歌人や市内の万葉歌碑を取りあげました。春休み中のフィールドワークにより作ったレジュメを用い、受講生の方々と文学散歩をしているような心持ちになって話を進めてゆきました。

呉市出身の歌人といえば、戦前なら渡辺直己(なおき)、戦後なら葛原繁が指折られます(各々宮原と音戸に歌碑あり)。渡辺は日中戦争に従軍しながら知的な態度を保ち続けて、ヒューマンな戦場詠を残した俊才です。呉高女の教師でもあった彼は出征直前の夏まで同地で授業をしていたのですが、その当時教え子だった方が会場にお越しになっていたのには驚きました。一方の葛原は自然詠を本領とする篤実な歌人です。彼らのほか、塚本邦雄の戦時期の広町在住、香川進の倉橋島歌碑についても言及しておきました。

講義の後半では、万葉歌碑をめぐる説明をしました。倉橋島(旧称「長門島」)の桂浜周辺や鳴滝(道がなく非常に不便な場所です)には巻十五の羈旅(きりょ)歌を刻した歌碑が五基もあります。また大空山に長歌の碑が、旧海軍墓地にも「海ゆかば」碑が三基あるとの紹介もしました。天平時代の遣新羅使の人々の望郷ないし遠く離れ住む妻への思慕を詠んだ歌が、総じて多く見出されたように思われます。

当日の参加者は計7名でしたが、私のセミナーに毎年いらして下さる方々もいて、文芸部の学生ともども終始なごやかな雰囲気講義を進められたことでした。

カッコよく英語を話そう!

「英語の発音やりなおしセミナー」を開催

人文社会系分野 富村 憲貴

7月5日(土)に、呉高専第1会議室で「英語の発音やりなおしセミナー」を開催しました。

英語に限らず、言葉は基本的に音でできています。言語を学び使う上で、きちんとした発音を身につけることは不可欠です。何より、きちんとした発音ができるとカッコよく、楽しいですね。日頃の授業でも音声指導を重視しており、今回は市民の皆さんにも発音の基礎から学んでいただくセミナーを行いました。



個別に発音指導をするため、少なめの定員で開講しましたが、13歳から60代後半まで、13名の皆さんにご参加いただきました。本校の学生

からも参加希望があり、年を重ねてなお学ぶ意欲をお持ちの参加者の方々に、学生も刺激を受けたかもしれません。

セミナーでは、発音の大切さを説明した後、リズム・音の連結・子音の3点を中心に解説とトレーニングを行いました。LとRの区別など、ペアワークも交えながら、楽しんで練習していただけたようです。

最後には、練習したポイントを活かして、ビートルズの「ヘイ・ジュード」を素材に個別指導を行い、全員で歌いました。



受講後のアンケートでは、継続して開講してほしいなどのご意見をいただきました。私の研究対象であるシェイクスピアの作品などを絡めてみるのも面白いかな、などと考えているところです。

学生相談室より

学生相談室長 宇根 俊範

昨年12月に突然前任の岩城先生より学生相談室長をバトンタッチされた。長年、呉高专に勤務し、クラス担任、学生主事、主事補といった任につき、学生の身近で学生の実情を十分に把握しているつもりであったが、いざ相談室長になってみると深刻な悩みを抱えている学生が想像以上に多いことに驚いている毎日である。

怪我や病気と違って心の病は外から見てなかなか気づきにくいので厄介であり、また治療には長い時間がかかる。

相談室では例年、1～3年生のロングホームルームの時間を使って、毎年1回ずつ本校カウンセラーの先生方による講話の時間を設定している。今年には既に6月18日に「心のトラブルとの付き合い方」と題して1年生に、また7月16日には「世の中の仕組みとのつきあい方」と題して3年生に講演していただいた。後期には2年生を対象として、デートDVに関する講演の時間を予定している。



昨今のご時勢を見ると、ゆったりとした時間を持てる余裕もなく、毎日必死で駆けずり回っている感がある。ともすれば、自己中心的な考えや行動に陥りやすくなり周囲の人々に目を向ける余裕もない状況である。ストレス社会の淵源はこのあたりではないだろうか？かつて「のんびり行こうよ♪ 俺たちは♪・・・何とかなるさ 世の中は」と言ったCMソングがもてはやされたが、こんな時代はもはや過去の遺物になってしまったのだろうか？

多くの学生がストレスを抱えている。毎日の学校生活が楽しいことに越したことはないが、「悩みを抱える」ことは若いうちには避けて通れない。悩みを乗り越えることで大人へと近づくのだと思う。相談室がそんな学生の一助となれば幸いである。

平成26年度 高校総体結果(団体戦)

| | 呉地区 | |
|--------|---------|----------|
| | 男子 | 女子 |
| ソフトテニス | 5位 | 2位 |
| 卓球 | 4位 | 6位 |
| ソフトボール | 2位 | — |
| 男子バスケ | 2回戦敗退 | — |
| テニス | 優勝 | — |
| 陸上 | 総合3位 | ベスト6入賞なし |
| | トラック2位 | ベスト6入賞なし |
| | フィールド2位 | ベスト6入賞なし |
| バレーボール | 6位 | — |
| ラグビー | — | — |
| 剣道 | 3位 | — |
| バドミントン | 優勝 | — |

| | 広島県 | |
|--------|-------------|------------------|
| | 男子 | 女子 |
| ソフトテニス | 1回戦敗退 | 3回戦敗退 (ベスト16) |
| 卓球 | 1回戦敗退 | (予選不通過) |
| ソフトボール | 2回戦(準々決勝)敗退 | — |
| 男子バスケ | (予選不通過) | — |
| テニス | 1回戦敗退 | — |
| 陸上 | ベスト8入賞なし | ベスト8入賞なし |
| | ベスト8入賞なし | ベスト8入賞なし |
| | ベスト8入賞なし | ベスト8入賞なし |
| バレーボール | (予選不通過) | — |
| ラグビー | Cブロック 3位 | — |
| 剣道 | 1回戦敗退 | — |
| バドミントン | ベスト8 | — |

第50回中国地区高等専門学校体育大会成績

期 日 7月4日(金)～7月6日(日)

会 場 津山・広島・呉

【団体戦】

| 種目 | | 順位 | 優勝 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 |
|------------|---|----|----|----|----------|----|----|----|----|----|
| 陸上競技 | | | 徳山 | 松江 | 呉 | 津山 | 米子 | 大島 | 広島 | 宇部 |
| バレーボール男子 | | | 松江 | 徳山 | 呉 津山 | | | | | |
| バレーボール女子 | | | 大島 | 松江 | 呉 米子 | | | | | |
| 柔 道 | | | 徳山 | 松江 | 津山 | | | | | |
| 硬式野球 | | | 徳山 | 宇部 | 呉 松江 | | | | | |
| テ ニ ス | | | 徳山 | 米子 | 呉 津山 | | | | | |
| バスケットボール男子 | | | 松江 | 大島 | 米子 | | | | | |
| バスケットボール女子 | | | 松江 | 徳山 | 宇部 | | | | | |
| 剣 道 | | | 松江 | 広島 | 大島 | 呉 | 津山 | 徳山 | 宇部 | 米子 |
| サッカー | A | | 松江 | 津山 | 呉 宇部 | | | | | |
| | B | | 大島 | 徳山 | 広島 米子 | | | | | |
| バドミントン | | | 徳山 | 松江 | 呉 米子 | | | | | |
| ソフトテニス | | | 徳山 | 呉 | 松江 | | | | | |
| 卓 球 | | | 広島 | 米子 | 松江 徳山 | | | | | |
| 水 泳 | | | 松江 | 大島 | 宇部 | 米子 | 徳山 | 広島 | 津山 | 呉 |
| ハンドボール | | | 徳山 | 津山 | 米子 宇部 | | | | | |

注) 太枠線は団体戦全国大会出場予定校

団体種目のない陸上競技、水泳競技については総合順位とする。

【個人戦(全国大会出場予定者)】

陸上競技

【男子】

200m 3位 C5 八山 亮太
 800m 1位 A2 松本 紘幸
 5000m 3位 M3 山本 貴大
 走高跳 1位 M4 中村 和真
 走幅跳 2位 C5 薙野 智弥
 三段跳 1位 C5 薙野 智弥
 円盤投 3位 E3 栗栖 裕紀

テニス

【男子】ダブルス2位

A3 相川 裕一 C3 三浦 佑輝

ソフトテニス

【女子】ダブルス1位

A3 矢野 明日香 A3 矢野 遥香

4年間寮生活を送ってきて

機械工学科4年 中井 大介

僕は、呉高専の学生寮「嶺陽寮」に入って4年目になります。ここには学校に通うには家が遠くて通うことが困難な学生たちが集団生活を送っています。そんな寮で僕は多くのことを学んでいます。

特に集団生活の場ということで上下関係について一年生のころから日常的に気を使いながら暮らしています。寮に入ってすぐの頃はとても窮屈な思いをしていて上下関係を守れていないとよく怒られていました。たった1,2年しか生まれた年が違わない人たちになぜそんなに気を使わなければいけないんだろうとこのことに不満を抱いていました。しかし就職を考え始めている今では上下関係の大切さについて少しわかった気がします。社会に出ると必ず上の人には敬語、上の人のために動くというのは当たり前のことです。この寮生活では社会に出て恥じることはないよう日常的に特訓されているんだと感じています。

また集団生活なので人に迷惑をかけることもあれば、迷惑をかけられてしまうということも少なくはありません。集団生活に慣れていない最初の頃はよく些細なことで喧嘩などをしていました。しかし、数年たった今では少々のことでは怒らなくなりました。自分も迷惑をかけているわけだし、相手の気持ちになって考えてみればそれはしょうがないと思えるようになりました。人の気持ちを考え相手を思いやる気持ちというのが見ついたと思います。

寮生活というのはただ学校に通うためにある宿泊施設ではなく集団生活の中で社会に出て、人間として恥ずかしくない自分を育てていく場だと僕は思います。



寮生活4年目

建築学科4年 伊達 千尋

私が入寮してから4年がたち、4回目の暑い夏がやってきました。慣れなれなれと思っていた私服への違和感もなくなってきたかなと思います。私が1年生のときは4年生・5年生はとても大人だという印象が強くありました。私も下の子達に先輩として見られているかなとドキドキです。

寮生活は集団生活なので、ちゃんと生活していけるのかと初めは不安でいっぱいでしたが、寮生歴4年にもなると、寮での過ごし方がわかってきて、ゆるい生活になりつつあります。入寮したての頃、何もかもが初めてのことでだらけで右往左往していたのが懐かしいです。そんな私は、女子寮ライフマスターとして寮生活に深く関わっています。ライフマスターになって1年が過ぎようとしています。先輩たちの任期がもうすぐ終わり、私達の学年が寮生会では最高学年となり、1つ下の学年の子が新しい役員として寮生会に入ってきます。

今までは先輩がいるから大丈夫、何とかかなると思っていたこともこれからは、私がいるから心配しなくていいよと堂々といえるようになっていきたいと思います。

寮は不便なこともありますが、友達が増えたり集団生活のマナーが学べたり、第2の実家の様な心地よさだなと思います。



呉高専の食堂運営管理について

シダックスフードサービス株式会社中国支店 高橋 信義



初めまして、トータルアウトソーシングサービスを展開している「シダックス(株)」と申します。平素は、事業運営におきまして格別なご協力とご理解を賜り、誠にありがとうございます。

少し会社「シダックス(株)」を紹介させていただきます。大きく分けて4つの会社で成り立っています。シダックスフードサービス(株)【給食事業全般】シダックス・アイ(株)【コンビニ事業】シダックス・コミュニティー(株)【レストランカラオケ事業】大新東(株)【車輛運行管理全般】です。全ての年代、全てのライフステージ、全てのビジネスステージで、あらゆるサービスを手掛ける「総合サービス企業グループ」です。

また、「安心・安全」が第一とし、そんな想いから、食材専門管理会社が出来た「エス・ロジックス(株)」を2002年に設立し、約8,000種類の食材を取扱い、専門家が厳しく管理し、食材を調達管理しており、その食材を使用しております。

衛生管理においては、従業員の日々健康管理に注意記録し、体調不良者は出勤停止等、衛生対策の徹底を図っています。食中毒、ノロウイルス対策も徹底して年間通して衛生管理活動に加え、食中毒被害が出やすい夏季とノロウイルスによる感染症がピークを迎える冬季には「衛生強調月間」を制定、通常の手洗い消毒の徹底、調理器具の消毒を強化としています。

今後ともご愛顧のほど、宜しくお願い申し上げます。

広報室より

広報室長 佐々木 伸子

今号より呉高専だよりの表紙が新しくなりました。呉高専の明るいイメージが現れた軽快なデザインになっています。今年5月には学校要覧が全面改訂されました。他にもイベントポスターやホームページの細かなところにも新しいデザインを目にすることが増えてきたのではないのでしょうか。

今、呉高専では学校のことをみてもらい、しっかりと伝えるために少しずつですがデザインの工夫を始めています。

授業参観などで学校に来られた保護者の方はお気づきかと思いますが、学内にも変化ができています。図書館棟玄関脇のショールームで学生の活躍を紹介したり、ロビーでの学生作品を展示が行われています。

現在、ショールームに展示されている「北米地域青少年派遣事業」の報告は、学生によるディスプレイデザインです。建築学科4年の西川美帆さんがデザインして、派遣メンバーと共に一ヶ月かけて準備をした力作です。このようにこれまでお見せする機会のなかった教育成果をみえるようにしております。



ショールーム展示「KAKEHASHI PROJECT」

呉高専広報室では、様々な形の情報発信を通して呉高専の今をみてもらい、呉高専を好きになってもらえるような広報活動をしていきたいと考えております。本年度は呉高専のホームページ改訂も行い、ますます充実させていく予定です。

これからも保護者の皆様に学校の様子が伝わるように努めてまいります。広報室へのご意見やご要望などありましたら以下までお寄せください。

呉高専広報室 kouhou@kure-nct.ac.jp

Realize your Dream

君の未来を共に創る

呉高専ではホームページで
球技大会、高専体育大会、駅伝大会、ロボコン大会等、
校内外の行事や授業風景、寮の様子、クラブ活動など日々の学生生活を
「呉高専日誌」で紹介しています。



呉高専

検索

呉高専ホームページ

<http://www.kure-nct.ac.jp/>

本校へのアクセス



交通案内

▶▶ お車でお越しの場合

- 【広島方面から】広島呉道路（クアライン）呉ICより20分。
- 【東広島方面から】東広島呉道路、先小倉交差点より5分。
- 【竹原方面から】国道185号、先小倉交差点より5分。

▶▶ 交通機関をご利用の場合

- JR呉線安芸阿賀駅下車 徒歩約7分。
- 広島電鉄バス「先小倉」「阿賀駅前」下車、徒歩約10分。



呉高専だより 70号 2014年9月

編集・発行 呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL. 0823-73-8964

mail. kouhou@kure-nct.ac.jp

■50周年記念ロゴ

（呉高専は2014年で創立50年になります。）

